

あかやま



第 **320** 号
学校日より381号

NEWS 2022(令和4)年度 松江北高校十大ニュース

▼ コロナ禍における学校生活

令和4年度もコロナ対応に追われた一年でした。特に年度前半は、学校の敷地内での部活ごと、クラスごとの集団検査や、総体などの大会前には検査協力を求められるなど対応に追われました。4月と8月にいくつか学級閉鎖もあり、伝統のロードレースは今年も見送りましたが、12月以降は市内の他校に比べて第8波の影響は少なく、年間を通して学校全体が休校になることはなく、落ち着いた学校生活が送れるようになってきました。今後は少しずつ以前のように行事や集会ができることを期待しています。

▼ 紅陵祭「築(きづき) ~Constructive Destruction~」

9月には恒例の紅陵祭(学園祭)がありました。コロナ禍での開催3年目の今年は外部からの来場を保護者に限っては可としました。1年生の合唱コンクールが復活、3年生のページェントを限定公開配信するなど、これまでの築きあげてきた伝統を守り、新たなことへも挑戦しながら、まさに「築」のテーマのもと、みんなが最後までしっかり楽しむことができる学園祭となりました。



▼ 部活動の活躍の跡

6月の県総体の男女総合成績は9位でしたが、各部とも最後まで粘り強く戦い抜きました。今年度は文化系の部活動の活躍が目立ちました。合唱部は11年ぶりに全日本合唱コンクール全国大会への出場を果たしました。また、自然科学部を中心に参加した「科学の甲子園全国大会」の物理部門で全国1位、総合成績でも島根県勢で過去最高の11位となりました。また、囲碁部も全国高等学校総合文化祭で団体4位になるなど、全国区での上位入賞の快挙もありました。



▼ 北高魅力化事業その1：2年生普通科近畿研修、理数科関東研修の実施

10月5～7日に普通科2年生で初めての近畿研修旅行を実施しました。近畿方面に進学した先輩たちと座談会があったり、コース別研修では企業や大学を訪問したりと自分の進路についてしっかり考える機会となりました。

また、理数科2年生も同じ日に3年ぶりで関東地区研修の実施ができました。最先端の研究施設や東京大学研究室の訪問、各分野での研究者との直接交流など充実した研修となりました。

いずれの研修も広い世界へ視野を広げ、友人との楽しい時間を過ごす貴重な体験となりました。



▼ 北高魅力化事業その2：エンパワーメントプログラム

昨年に続き12月に本校でエンパワーメントプログラム(5日間を英語のみで過ごす語学研修)を希望者対象に実施しました。34名の参加希望者があり、5日間で語学スキルはもちろんのこと、挑戦する精神や自分についての新たな気づきなど、それぞれが自分自身の成長を感じることであったステキな5日間となりました。



▼ 北高魅力化事業その3：キッズ☆サイエンスプログラム

今年度初めて開催しました。地域の小学生を対象に、高校生が先生役となってサイエンスの不思議を学ぶという企画で、各回のテーマを生物・物理・地学・化学に分け、4回実施しました。

理数科1年生を中心に、高校生が普段の学びをアウトリーチする貴重な場ではありましたが、小学生や同伴の保護者にもサイエンスの魅力はもちろん、北高の魅力もアピールする絶好の機会となりました。毎回応募者多数で、参加者からの評判もよく、今年度からSTEAM教育を推進する本校にとって今後の目玉企画のひとつになっていくと考えています。



▼ 「島根県立松江北高等学校魅力化コンソーシアム」の立ち上げ

令和4年3月に準備委員会を行い、今年度より正式に「島根県立松江北高等学校魅力化コンソーシアム」を立ち上げました。役員会は県内大学、PTA、双松会(卒業生会)、医療関係団体、地元企業や地域住民などの代表13名で構成しました。今年度は双松会と連携して卒業生とのウェビナーを行ったり、PTAの広報活動として行事や講演の動画配信などを行ったりしました。今後北高の教育活動がますます充実し、魅力や特色ある取組ができるように様々な地域や関係団体と連携していきたいと考えています。

..... 頑張っています! 北高の探究活動

第8回 高校生国際シンポジウム 2月21・22日 鹿児島市 宝山ホール

2年出来山育世さんが書類選考を突破し参加しました。このシンポジウムは全国で進められている探究活動の発表会です。各界をけん引するの方々による基調講演やパネルディスカッション、研修会、交流会などがあり直に本物に触れる充実した学びの場です。来年度も本校の生徒が参加を目指して探究活動を行っています。

高校生国際シンポジウムに参加して

2年 出来山育世

私は、「石見神楽の娯楽性についての研究」というテーマでポスター発表を行いました。石見神楽が出雲神楽に比較して娯楽性が強いことについて研究しました。研究要綱や発表用ポスターの作成と普段の勉強の両立は大変でしたが、たくさんの方々に自分の発表を見ていただくことができ、とても貴重な経験になりました。また、全国から集まった高校生の発表をみたり交流したり、審査員の方々からアドバイスをいただいたりしたことで、とてもいい刺激を得ることができました。このような機会はめったにないので、後輩の皆さんにはぜひ参加してほしいです!カテゴリーにとらわれず、自分が興味のある内容で探究活動を楽しんで欲しいと思います。



しまね探究フェスタ2023 2月3日 <にびきメッセ>

北高からは1年生3名、2年生5名が参加しました。1年生は自主探究活動、2年生は「総合的な探究の時間」の成果を発表し、他校の生徒との交流をしました。このフェスタは県内の高校生が集い、探究学習の学びを互いに共有し合うことで、探究学習の楽しさを知り、学びに向かう意欲を喚起するイベントです。両グループともしっかりと発表し、他校の生徒や助言者の皆さんと有意義な交流を行いました。

取り組んだ内容は以下のとおりです。また、1年生の取り組みは「SHIMANEみらい共創CHALLENGE」というプロジェクトに応募し、採用されて行った活動です。(このプロジェクトを紹介した動画をQRコードからご覧いただけます。本校の生徒も登場します。)以下、本校の生徒の発表内容です。



建設現場をもっと明るくしようプロジェクト

1年 山之内聡香 伊藤愛理 牧野桃子

建設現場の白い仮囲いにアートを掲示する壁アートプロジェクト。建設現場にアートを掲示し、それを見た人の建設現場に持つマイナスイメージを少しでも変えたいと活動に取り組んだ。

WHAT IS マイナンバーカード?

~私たちの研究が「行政・国民・社会」を救う~

2年 石川未来 大賀さくら 濱伊吹 加藤暖人 小林慶太

積極的平和という観点からマイナンバーカードに着目して行った研究。市役所でのインタビュー、モデルとなったエストニアの制度との比較などを行い、マイナンバーカードの取得率アップ、リテラシーの向上さらには、日本の目指す将来の姿について探究した。



転任者ごあいさつ

今年度を終えるにあたり、紹介する教職員が異動することになりました。生徒保護者の皆様に一言ずつ挨拶を申し上げます。

教頭・数学 伊藤 尚子先生

20数年ぶりの2度目の勤務、しかも母校ということもあって、すごくうれしい気持ちで2年前ここに来たのがつい昨日のように思い出されます。

久しぶりに来て、懐かしいことや変わらないものがたくさんありました。しかしこの2年間でずいぶん変わったり変えたりしたこともたくさんありました。それを卒業生として少しさみしく思うこともありましたが、大勢の人に支えられ、新しいことへチャレンジする勇氣と希望をもらいました。

皆さんはきっとこれからたくさんの方々にチャレンジすると思います。どうぞ、思い切ってやってください。きっと北高の先生方、友達、周りの人たちが支えてくれます。失敗しても大丈夫。皆さんのことをずっと応援しています。頑張れ、私の後輩たち!

国語 見越 正勝先生

川の水のように、淀みに浮かぶ泡沫のように、赤山に身を寄せ、そしてこのたび去ることになりました。千万の事々に触れて、億万の思いの揺らぎを懐かしく思っています。

みなさんでなければ過ごせなかった日々は、たいそう楽しいものでした。みなさんの前向きな姿も時にうずくまる様子も、みな愛おしく労しい。この年月の記憶を糧に、これからも学んでいこうと思います。

千々の思いを尽くすことはできません。古歌に倣い、幸くと告げてお別れします。ありがとうございます。

英語 花岡 倫子先生

5年間勤務しました。多くの先生方、生徒のみなさんに出会うことができ、授業や学校行事、バドミントン部の活動などで充実した時間を持つことができました。また、伝統ある松江北高で新しい魅力化の取り組みに参画でき、コロナ禍ではありましたが、隠岐島前研修や津和野研修、普通科初めての近畿研修も実施でき、みなさんの笑顔を見ることができたのは素敵な思い出です。また、紅陵祭ページェントでは各クラス創意工夫が見られ、毎年楽しみに鑑賞させていただきました。来年度も楽しみにしています! いつまでも「一歩踏み出す勇氣」を忘れずに、自分で決断して何でも実践してみてください。 Practice makes perfect. 努力をするみなさんを応援しています。

保健体育 清水 禎宏先生

日常生活でいい判断ができない者に、グランドでいい判断が出来るわけがない。

元ラグビー日本代表監督 平尾誠二

型ができていない者が芝居をすると「型なし」になる。

型がしっかりした者がオリジナリティーを出せば「型破り」になる。型をつくるには、稽古しかない。落語家 立川談志

生き残る種とは「最も強いもの」ではない。「最も知的なもの」でもない。

それは変化に「最も適応したもの」である。

自然科学者 チャールズ・ダーウィン

事務長 小松原 喜幸さん

松江北高校に退職までの2年間勤務させていただきました。

これまで何度か海外旅行に出かけていたのですが、コロナ感染症が流行する中、そうした機会は失われてしまいました。

スイス旅行に行ったときのことで。英語はもとより外国語は話せませんので、ガイド付きの団体旅行に参加しました。ガイドさんが注意事項を話してくれるのですが、その中で印象に残っていることがあります。「お店に入ったらあいさつをしてください。ここではあいさつをしない人は、いないのと同じに扱われます」という趣旨でした。

家族でパン屋に入ったとき、皆無言で入ったのですが、お店の人は私たちがいないかのように振る舞っていました。ガイドさんの言葉を思い出し、一声掛けるとにこやかな笑顔になりました。人と人とのつながりの基本は、「あいさつ」にあるのだと、心から思いました。

事務室の片隅におりましたので、生徒の皆さんと関わることは少なかったと思います。それでも、朝夕に校内でもあいさつしてくれる生徒さんの姿をうれしく思っていました。

皆さんと短い期間ではありましたが、同じ時間を共有できたことをありがとうございます。皆さんのいっそうの飛躍を心から祈っております。

物理 森脇 直紀先生

初めての県立高校勤務で右も左もわからず不安でしたが、生徒の皆さんや先生方に優しく話しかけていただき一年間動めることができ、多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございます。僕の好きな言葉に「He who moves not forward, goes backward. (前進をしない人は、後退しているのだ。)」があります。受験に限らず、一日一日成長できるよう頑張ってください!

家庭科 稲村 佳子先生

一年間という短い期間でしたがお世話になりました。

生徒の皆さんは、自分の進路実現の為にこれからも頑張ってください。応援しています。

英語 繁澤 優子先生

I would like to extend my sincere gratitude to all those who have supported me in various ways over the last five years. It was such a blessing for me to be able to spend some quality time with a lot of wonderful people here. Although it is so sad that I cannot be with you any more, I will always be praying for your dreams to come true. My lovely students, please bear in mind that miracles can happen to those who have made adequate preparations! Best of luck to each of you! Terima kasih!

日々の生活の中で当たり前のことを当たり前に積み重ねることがいかに大切かということをお忘れではありません。その当たり前の積み重ねが大切なところで良い結果をもたらす原動力になるはず。そして結果を早く求めてはなりません。基本をしっかりと身につけるために時間を削ぎ、様々な経験を積み重ねること自分らしさを追求することです。それが成功への近道ではないでしょうか。また、世の中は時代とともに変化します。歴史から未来を予測し、柔軟に適応できるだけの「人間力」を身につけたいものです。

23年間の長きに渡り北高に勤めさせて頂きありがとうございました。

保健体育 矢野 真以先生

北高1年目に、2年生生理教科の保健の授業を担当しました。3学期の終わり頃に、3年生になったら保健の授業はないことを授業で話したことがあります。授業後に、ある生徒が、「先生、なんで3年生になったら保健の授業はなくなるんですか。自分の健康や人生に関わる一番大事な教科じゃないですか。」と、質問してくれた人がいました。それも、一人ではなく複数名いたことを覚えています。「これからは、授業で学んだことをベースにして、自分や家族の健康を守るために、自分で学んでいこうよ。」と、答えたと思います。と、同時に、保健の授業を自分の人生と結び付け、大切に学んでくれたことがとても嬉しかったです。この他にも皆さんとのたくさん思い出があり、ここでは語り尽くせません。

おわりに、担任をしていた昨年の卒業生と今年の補習科生に贈った言葉を紹介します。

「人生は選択の連続。悩んで出した答えが正解かどうかは誰にも分かりません。ただ、その時々で、自分が出した答えを自分の正解にできるように、前向きに人生を歩んでください。」

授業も担任も部活動も、気持ちよく、楽しく皆さんと過ごせた6年間でした。ありがとう。

数学 林 裕介先生

3年間という短い間でしたが、お世話になりました。この春卒業した生徒たちは何事にも手を抜かず自分で考え一生懸命コツコツ取り組むことができる集団でした。在校生のみなさんにはそんな先輩たちを超える活躍を期待しています。自分の強みを磨くのはもちろんですが、苦手だからと目を背けている事はありませんか? その中にご成長するヒントがたくさんありますよ。私もまだまだ成長していきたいと思っています。ありがとうございます。

数学 樋野 大輔先生

あつという間の8年間でした。8年の間にたくさんの方々にお世話になりました。ありがとうございます。振り返ってみるとたくさんのお出来事が思い出されますが、私にとっては日々の授業が最も楽しい時間であったと感じます。どう教えたら力がつくか熟考し、準備万端で臨んだはずが思うようにいかなかった授業もありました。こちらの想定を遥かに超えるすごい解答や珍解答が出て、皆で盛り上がった授業もありました。さて、いざ北高を去ると決まったら、日を追う毎に「もっと授業をしたい」という思いが強くなりました。なぜなら4月からは授業ができないことが決まっているからです。次の職場は私にとって全く未知の世界であり、不安しかありません。しかし、「未知との遭遇は成長のチャンスだ」と言い続けた責任もありますので精一杯やりたいと考えています。皆さんもお元気で。

地歴・公民 大内 梢先生

4年間、皆さんとともに過ごし、学びあえたことを、嬉しく思います。そして、出会えた縁に心から感謝しています。その間、皆さんの真剣な表情・笑顔・涙する姿・悩む姿がこの目に焼きつけることができました。みなさんのどの表情もどの姿も、すべて愛おしいです。

みなさんがむかえる未来は、予測の難しい時代になると言われています。振り返れば、コロナ禍では、自分の生活や考え方などを変え、適応させていかなければならぬ、ともに悩みましたね。だからこそ、「人生は、探究の連続」そう思って、毎日を過ごしてみませんか? どの教科科目にも、皆さんの生活においても、自己の生き方を考える時間はとても大切だと思っています。自分・他者・社会(世界)と向きあって、切磋琢磨し、「愛される北高生」となってくださいね。「これからもみんなの探究活動はつづくよ、どこまでも!!」

地歴・公民 土居 直子先生

「初心忘るべからず」とは、室町時代の能の大成者である世阿弥が著した『花鏡』の中にある言葉です。本来は、未熟だった時の芸を忘れず、芸を向上させねばならないというような意味でしたが、現代では物事に慣れても慢心せずに、最初のころの志を忘れてはいけないというような意味で使われる言葉です。私が教員になろうと真剣に思ったきっかけは、教育実習の時に放課後、教室にいた生徒2名に呼び止められ、話し込んだことでした。なんてことのないおしゃべりの時間でしたが、とても心に残る時間となりました。そして、この経験から、高校生ともしっかり関わっていきたく思い、教員になりました。今、振り返ってみて、その思いはずっと変わらなかったと感じています。みなさんも、高校入学の時に夢や希望を抱いていたと思います。高校生活に慣れていく中でいろいろなことに追われ、そんな夢や希望を思い浮かべることが、あまりないかもしれませんが、ふとした時に思い出してみてください。その夢や希望が、なんとなく流れていく日々に疲れてしまった時に元気を与えてくれるかもしれません。私も4月からは今までとは違う生活をスタートしますが、新たな志をもって進んでいこうと思います。

数学 引野 恭也先生

1年間という短い間でしたが、大変お世話になりました。北高での勤務は不安の方が大きかったですが、皆さんのおかげでとても楽しく働くことができました。また、皆さんと一緒に数学を勉強することで改めて私自身が「数学楽しい」と感じることでできた1年でもありました。

これからの人生、楽しく笑顔で過ごしてってください。ありがとうございました。

理科 梶谷 泰子先生

20世紀末、スタンフォード大学のジョン・D・クランボルト教授によって提唱された「計画的偶発性理論」によると、「個人のキャリアの8割は予想しない偶発的なことによって決定される」のだそうです。北高を卒業して文学部に進学した私も、化学の実習助手として北高に戻ってくることになるのは、夢にも思っていなかった。

今、自分の将来像の不確かさに漠然とした不安を感じているみなさん、その時、そのときを真剣に楽しんで過ごしてみてください。その積み重ねが、皆さんの将来を明るくしてくれることと思います。また、目標に向かって一生懸命頑張っているみなさん、もし、自分が描いている将来像と違った結果になっても、それまでの努力が無駄になるということはありません。北高での生活もきっと将来の皆さんを支えてくれるものになるでしょう。

皆さんの前には、皆さん自身が驚くような未来が待っているはず。楽しみに歩いてみてください。

4年間、ありがとうございます。

地歴・公民 服部 美紀夫先生

1年間という短い間でしたが、松江北高校という伝統ある学校に勤務できて光栄でした。教科では日本史を担当させていただきましたが、楽しく授業をすることができました。また、部活動では久しぶりにサッカー部の顧問となりました。特に何も指導することはありませんでしたが、ただ日々サッカーを楽しんで見せてもらいました。ありがとうございました。